

# 令和元年度横須賀市地方公営企業

## 決 算 審 査 意 見

### 第 1 審査の対象

令和元年度横須賀市水道事業決算  
令和元年度横須賀市公共下水道事業決算  
令和元年度横須賀市病院事業決算

### 第 2 審査の期間

令和 2 年 6 月 1 日から同年 8 月 13 日まで

### 第 3 審査の手続

横須賀市地方公営企業決算審査については、横須賀市監査基準に準拠し、審査に付された決算報告書、事業報告書等について、関係法令に準拠して作成され、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、また、予算執行が適正に行われているかを検証するため、総勘定元帳その他の会計帳票及び関係証書類との照合その他必要と認めた審査手続を実施した。

なお、審査に当たっては、事業の経済性を発揮し、公共の福祉を増進するように運営されたかを検討するため、事業の経営分析を行った。

### 第 4 審査の結果

審査に付された決算報告書、事業報告書等は、関係法令に準拠して作成されており、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。また、予算執行についても適正と認められた。

事業の運営面についてみると、各公営企業ともに企業の経済性に留意し、本来の目的である公共の福祉を増進するように運営されていると認められた。

## 主要な経営指標等の推移

### 第1 3 企業会計合計

3 企業会計合計の最近5 事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
経営成績	営業収益	19,673,635	19,452,623	19,338,399	19,180,597	18,951,101
	営業損失	3,330,314	3,132,330	3,573,749	3,609,028	4,189,930
	経常利益	2,871,266	3,164,514	2,334,712	2,363,585	1,933,157
	当年度純利益	1,943,687	3,213,591	2,318,830	2,493,626	1,951,767
	繰入金を除いた 当年度純損失	3,242,654	1,828,338	1,503,262	977,790	1,557,305
財政状態	資産合計	366,507,408	363,074,747	358,355,099	357,275,942	353,157,338
	資本金	53,860,568	55,397,899	57,243,732	80,389,020	84,220,507
	資本合計	99,760,073	103,685,176	106,770,826	109,685,030	111,942,129
	自己資本構成比率	66.6%	67.5%	68.2%	68.6%	69.4%
	1 年超滞納未収金	50,257	41,549	51,385	39,071	35,398
	不納欠損額	12,636	13,639	8,581	12,288	6,449
	企業債年度末残高	116,493,373	112,608,898	108,620,364	105,888,418	102,048,711
	企業債利息	2,366,618	2,051,686	1,758,891	1,484,129	1,228,916
キャッシュ・フロー	業務活動による キャッシュ・フロー	10,278,509	10,165,311	9,233,515	8,905,541	8,620,872
	投資活動による キャッシュ・フロー	△6,298,751	△6,035,921	△7,422,347	△5,345,734	△10,120,722
	財務活動による キャッシュ・フロー	△3,177,381	△3,120,219	△2,297,035	△1,285,365	△2,444,773
	資金期末残高	14,480,560	15,489,730	15,003,863	17,278,305	13,333,681
その他	建設改良費	7,344,457	7,988,674	8,540,452	10,391,766	10,694,424
	一般会計繰入金	6,094,760	5,920,186	5,653,798	5,055,208	5,042,490
	職員数	301人	308人	311人	308人	312人

- (注) 1 営業収益には、消費税等は含まれていない。  
 2 繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。  
 3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。  
 4 自己資本構成比率 = (資本合計 + 繰延収益) / 総資本

## 【当年度の概要】

### (1) 経営成績

公営企業3会計の合計について、営業収益は、すべての事業で減収となったため、前年度に比べて2億2,949万円(1.2%)減少し、189億5,110万円となった。

営業損失は、すべての事業で減益となったため、前年度に比べて5億8,090万円(16.1%)増加し、41億8,993万円となった。

経常利益は、公共下水道事業が増益となったが、水道事業及び病院事業で減益となったため、前年度に比べて4億3,042万円(18.2%)減少し、19億3,315万円となった。

当年度純利益は、公共下水道事業が増益となったが、水道事業及び病院事業で減益となったため、前年度に比べて5億4,185万円(21.7%)減少し、19億5,176万円となった。

当年度純利益から一般会計繰入金を除いてみると当年度純損失に転じ15億5,730万円となり、純損失額は前年度に比べて5億7,951万円(59.3%)増加した。

### (2) 財政状態

資産合計は、水道事業が増加したが、公共下水道事業及び病院事業で減少したため、前年度に比べて41億1,860万円(1.2%)減少し、3,531億5,733万円となった。

資本合計は、すべての事業において増加したため、前年度に比べて22億5,709万円(2.1%)増加し、1,119億4,212万円となった。

1年超滞納未収金は、水道事業が増加したが、公共下水道事業及び病院事業で減少したため、前年度に比べて367万円(9.4%)減少し、3,539万円となった。

企業債年度末残高は、すべての事業において減少したため、前年度に比べて3億3,970万円(3.6%)減少し、1,020億4,871万円となった。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、業務活動により86億2,087万円増加し、投資活動により101億2,072万円減少し、財務活動により24億4,477万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は前年度に比べて39億4,462万円(22.8%)減少し、133億3,368万円となった。

### (4) その他

建設改良費は、公共下水道事業が減少したが、水道事業及び病院事業で増加したため、前年度に比べて3億265万円(2.9%)増加し、106億9,442万円となった。

一般会計繰入金は、公共下水道事業が増加したが、水道事業及び病院事業で減少したため、前年度に比べて1,271万円(0.3%)減少し、50億4,249万円となった。

職員数は、水道事業が減少したが、公共下水道事業及び病院事業で増加したため、前年度に比べて4人増加し、312人となった。

## 第2 水道事業

水道事業の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
経営成績	営業収益	9,435,634	9,291,772	9,310,991	9,308,338	9,131,786
	営業利益	617,567	831,013	623,630	830,256	354,277
	経常利益	1,444,660	1,591,217	1,365,493	1,609,207	1,153,915
	当年度純利益	934,092	1,595,573	1,352,080	1,742,765	1,142,246
	繰入金を除いた 当年度純利益	915,012	1,579,504	1,339,308	1,731,175	1,133,214
財政状態	資産合計	95,447,951	96,572,871	97,726,303	98,832,833	98,884,941
	資本金	31,109,677	31,181,677	31,235,677	52,351,152	54,829,502
	資本合計	55,491,011	57,158,584	58,571,908	60,349,674	61,510,920
	自己資本構成比率	77.0%	77.3%	77.3%	77.8%	78.4%
	1年超滞納未収金	13,831	12,657	15,330	9,936	10,048
	不納欠損額	5,531	3,924	4,382	5,538	3,249
	企業債年度末残高	19,121,355	19,199,603	19,064,874	19,009,124	18,482,550
企業債利息	421,382	356,728	296,267	244,377	197,419	
キャッシュ・フロー	業務活動による キャッシュ・フロー	3,913,271	3,858,617	4,148,545	4,198,358	3,813,362
	投資活動による キャッシュ・フロー	△2,929,615	△3,519,617	△3,914,612	△3,814,569	△6,638,508
	財務活動による キャッシュ・フロー	△216,451	150,247	△80,728	△20,749	△507,574
	資金期末残高	8,747,581	9,236,828	9,390,033	9,753,072	6,420,352
その他	建設改良費	2,852,519	3,738,566	4,264,657	4,335,093	4,943,220
	一般会計繰入金	110,080	88,069	66,772	46,590	28,032
	職員数	179人	182人	184人	180人	177人

(注) 1 営業収益には、消費税等は含まれていない。

2 繰入金を除いた当年度純利益は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。

3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。

4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本

## 【当年度の概要】

### (1) 経営成績

営業収益は、給水収益の減などにより、前年度に比べて1億7,655万円(1.9%)減少し、91億3,178万円となった。

営業利益は、営業収益の減少に加え、資産減耗費の増などにより営業費用が増加したため、前年度に比べて4億7,597万円(57.3%)減少し、3億5,427万円となった。

経常利益は、営業利益の減少に加え、営業外費用の減少が、営業外収益の減少を上回ったことにより、前年度に比べて4億5,529万円(28.3%)減少し、11億5,391万円となった。

当年度純利益は、経常利益の減少に加え、固定資産売却益の減などにより特別利益が減少し、半原水源系統整理費の増などにより特別損失が増加したため、前年度に比べて6億51万円(34.5%)減少し、11億4,224万円となった。

当年度純利益から一般会計繰入金を除いてみると当年度純利益11億3,321万円となるが、純利益額は前年度に比べて5億9,796万円(34.5%)減少した。

### (2) 財政状態

資産合計は、主に投資その他の資産の長期性預金の皆増による固定資産の増加により、前年度に比べて5,210万円(0.1%)増加し、988億8,494万円となった。

資本合計は、主に組入資本金の組み入れによって資本金が増加したことにより、前年度に比べて11億6,124万円(1.9%)増加し、615億1,092万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて11万円(1.1%)増加し、1,004万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の償還額が借入額を上回り、前年度に比べて5億2,657万円(2.8%)減少し、184億8,255万円となった。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、当年度純利益と減価償却費を主因として業務活動により38億1,336万円増加し、有形固定資産の取得等による投資活動により66億3,850万円減少し、企業債償還等の財務活動により5億757万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は前年度に比べて33億3,271万円(34.2%)減少し、64億2,035万円となった。

### (4) その他

建設改良費は、主に経年化した配水管の耐震性能を備えた管への更新工事などの配水施設整備事業に充てられ、前年度に比べて6億812万円(14.0%)増加し、49億4,322万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて1,855万円(39.8%)減少し、2,803万円となった。

職員数は、前年度に比べて3人減少し、177人となった。

### 第3 公共下水道事業

公共下水道事業の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
経営成績	営業収益	9,555,113	9,478,155	9,324,704	9,177,202	9,124,877
	営業損失	3,282,824	3,387,774	3,588,523	3,833,596	3,883,076
	経常利益	1,541,976	1,591,325	1,073,420	813,429	903,219
	当年度純利益	1,566,855	1,650,814	1,079,137	820,029	940,781
	繰入金を除いた 当年度純損失	2,567,405	2,340,046	1,716,184	1,626,797	1,547,259
財政状態	資産合計	254,265,569	250,040,637	244,468,704	242,485,052	238,377,787
	資本金	11,610,934	12,630,265	14,000,097	15,650,911	16,730,048
	資本合計	35,454,779	37,015,105	38,094,262	38,920,868	39,873,982
	自己資本構成比率	63.4%	64.0%	64.6%	64.8%	65.5%
	1年超滞納未収金	27,377	20,632	29,361	23,408	19,888
	不納欠損額	4,779	9,398	4,014	6,200	3,103
	企業債年度末残高	90,348,529	87,388,420	84,355,352	82,162,009	79,117,622
キャッシュ・フロー	企業債利息	1,845,476	1,631,269	1,412,706	1,198,145	994,246
	業務活動による キャッシュ・フロー	5,529,188	5,425,286	4,304,700	3,892,548	4,043,804
	投資活動による キャッシュ・フロー	△2,760,264	△2,148,080	△3,143,617	△1,160,893	△2,890,329
	財務活動による キャッシュ・フロー	△2,724,792	△2,994,393	△2,099,285	△1,169,780	△1,943,279
その他	資金期末残高	3,060,736	3,343,548	2,405,345	3,967,219	3,177,414
	建設改良費	3,862,278	3,792,504	3,830,344	5,610,144	5,039,538
	一般会計繰入金	4,230,680	4,067,117	3,867,469	3,616,618	3,728,458
	職員数	116人	120人	121人	121人	127人

- (注) 1 営業収益には、消費税等は含まれていない。  
 2 繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。  
 3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。  
 4 自己資本構成比率 = (資本合計 + 繰延収益) / 総資本

## 【当年度の概要】

### (1) 経営成績

営業収益は、下水道使用料の減などにより、前年度に比べて5,232万円(0.6%)減少し、91億2,487万円となった。

営業損失は、営業収益の減少が、資産減耗費の減などによる営業費用の減少を上回ったため、前年度に比べて4,947万円(1.3%)増加し、38億8,307万円となった。

経常利益は、営業損失が増加したものの、営業外費用の減少が、営業外収益の減少を上回ったため、前年度に比べて8,979万円(11.0%)増加し、9億321万円となった。

当年度純利益は、経常利益の増加に加え、放射能事故による損失の減に伴い特別損失が減少したことなどにより、前年度に比べて1億2,075万円(14.7%)増加し、9億4,078万円となった。

当年度純利益から一般会計繰入金を除いてみると当年度純損失に転じ15億4,725万円となるが、純損失額は前年度に比べて7,953万円(4.9%)減少した。

### (2) 財政状態

資産合計は、主に構築物等の減価償却等に伴う固定資産の減少により、前年度に比べて41億726万円(1.7%)減少し、2,383億7,778万円となった。

資本合計は、主に組入資本金の組み入れによって資本金が増加したことにより、前年度に比べて9億5,311万円(2.4%)増加し、398億7,398万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて351万円(15.0%)減少し、1,988万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の償還額が借入額を上回り、前年度に比べて30億4,438万円(3.7%)減少し、791億1,762万円となった。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、当年度純利益と減価償却費を主因として業務活動により40億4,380万円増加し、有形固定資産の取得等による投資活動により28億9,032万円減少し、企業債償還等の財務活動により19億4,327万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は前年度に比べて7億8,980万円(19.9%)減少し、31億7,741万円となった。

### (4) その他

建設改良費は、主に下町浄化センター汚泥焼却炉設備更新工事などの終末処理場建設事業に充てられ、前年度に比べて5億7,060万円(10.2%)減少し、50億3,953万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて1億1,184万円(3.1%)増加し、37億2,845万円となった。

職員数は、前年度に比べて6人増加し、127人となった。

## 第4 病院事業

病院事業の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
経営成績	医業収益	682,887	682,696	702,702	695,056	694,438
	医業損失	665,057	575,569	608,855	605,688	661,132
	経常損失	115,370	18,028	104,202	59,050	123,977
	当年度純損失	557,261	32,796	112,386	69,168	131,260
	繰入金を除いた 当年度純損失	1,590,261	1,067,796	1,126,386	1,082,168	1,143,260
財政状態	資産合計	16,793,888	16,461,238	16,160,091	15,958,056	15,894,609
	資本金	11,139,956	11,585,956	12,007,956	12,386,956	12,660,956
	資本合計	8,814,282	9,511,486	10,104,655	10,414,487	10,557,226
	自己資本構成比率	57.6%	62.8%	67.2%	69.8%	70.6%
	1年超滞納未収金	9,048	8,259	6,693	5,727	5,461
	不納欠損額	2,325	316	185	549	96
	企業債年度末残高	7,023,488	6,020,874	5,200,136	4,717,284	4,448,538
	企業債利息	99,659	63,687	49,917	41,606	37,250
キャッシュ・フロー	業務活動による キャッシュ・フロー	836,049	881,407	780,269	814,635	763,704
	投資活動による キャッシュ・フロー	△608,871	△368,222	△364,117	△370,270	△591,884
	財務活動による キャッシュ・フロー	△236,137	△276,073	△117,021	△94,835	6,080
	資金期末残高	2,672,242	2,909,353	3,208,483	3,558,013	3,735,914
その他	建設改良費	629,659	457,603	445,450	446,528	711,664
	一般会計繰入金	1,754,000	1,765,000	1,719,556	1,392,000	1,286,000
	職員数	6人	6人	6人	7人	8人

- (注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。  
 2 繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。  
 3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。  
 4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本  
 5 職員数は市職員数であり、指定管理者の職員は含まれていない。

## 【当年度の概要】

### (1) 経営成績

市民病院及びうわまち病院（以下「両病院」という。）は、公益社団法人地域医療振興協会を指定管理者とする指定管理者制度（利用料金制）を導入している。

医業収益は、市民病院では増加し、うわまち病院では減少した。事業合計では前年度に比べて61万円（0.1%）減少し、6億9,443万円となった。

医業損失は、市民病院では増加し、うわまち病院では減少した。事業合計では前年度に比べて5,544万円（9.2%）増加し、6億6,113万円となった。

経常損失は、市民病院が経常損失1億5,920万円を計上し、うわまち病院が経常利益3,522万円を計上した。事業合計では前年度に比べて6,492万円（110.0%）増加し、1億2,397万円となった。

当年度純損失は、市民病院が当年度純損失1億6,648万円を計上し、うわまち病院が当年度純利益3,522万円を計上した。事業合計では前年度に比べて6,209万円（89.8%）増加し、1億3,126万円となった。

当年度純損失から一般会計繰入金を除いてみると当年度純損失11億4,326万円となり、前年度に比べて6,109万円（5.6%）増加した。

### (2) 財政状態

資産合計は、市民病院では増加し、うわまち病院では減少した。事業合計では前年度に比べて6,344万円（0.4%）減少し、158億9,460万円となった。

資本合計は、両病院とも増加した。事業合計では前年度に比べて1億4,273万円（1.4%）増加し、105億5,722万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて26万円（4.6%）減少し、546万円となった。

企業債年度末残高は、両病院とも減少した。事業合計では前年度に比べて2億6,874万円（5.7%）減少し、44億4,853万円となった。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、業務活動により7億6,370万円増加し、投資活動により5億9,188万円減少し、財務活動により608万円増加した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて1億7,790万円（5.0%）増加し、37億3,591万円となった。

### (4) その他

建設改良費は、前年度に比べて2億6,513万円（59.4%）増加し、7億1,166万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて1億600万円（7.6%）減少し、12億8,600万円となった。

職員数は、前年度に比べて1人増加し、8人となった。

## 1 市民病院

市民病院の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
経営成績	医業収益	403,708	402,998	422,519	418,714	420,482
	医業損失	393,893	319,698	336,575	331,434	398,617
	経常損失	141,125	65,259	114,496	89,949	159,201
	当年度純損失	583,016	80,027	122,681	100,066	166,485
	繰入金を除いた 当年度純損失	1,226,016	722,027	754,681	731,066	796,485
財政状態	資産合計	7,040,612	6,660,201	6,578,517	6,543,996	6,562,302
	資本金	9,181,356	9,392,356	9,605,356	9,800,356	9,970,356
	資本合計	3,708,337	4,123,310	4,497,185	4,592,119	4,595,634
	自己資本構成比率	54.0%	63.8%	70.1%	72.4%	72.1%
	1年超滞納未収金	7,587	6,721	5,340	4,595	4,304
	不納欠損額	496	244	131	405	46
	企業債年度末残高	2,942,905	2,364,993	1,915,901	1,761,498	1,692,681
	企業債利息	37,124	31,298	26,067	21,918	19,920
キャッシュ・フロー	業務活動による キャッシュ・フロー	480,093	522,744	459,217	478,515	420,617
	投資活動による キャッシュ・フロー	△485,914	△199,961	△225,667	△223,643	△237,080
	財務活動による キャッシュ・フロー	793	△336,370	45,623	49,613	102,010
	資金期末残高	29,926	16,339	295,513	599,998	885,546
その他	建設改良費	486,577	262,760	295,924	288,171	359,843
	一般会計繰入金	1,111,000	1,137,000	1,128,556	826,000	800,000
	職員数	3人	3人	3人	3人	3人

(注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。

2 繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。

3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。

4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本

## 【当年度の概要】

### (1) 経営成績

医業収益は、主に他会計負担金の増により、前年度に比べて176万円（0.4%）増加し、4億2,048万円となった。

医業損失は、医業費用が資産減耗費の増などにより増加したため、前年度に比べて6,718万円（20.3%）増加し、3億9,861万円となった。

経常損失は、医業損失が増加したことに加え、主に医業外収益が他会計負担金の減などにより減少したため、前年度に比べて6,925万円（77.0%）増加し、1億5,920万円となった。

当年度純損失は、経常損失が増加したことに加え、職員宿舎に係る土地の減損損失を特別損失として計上したため、前年度に比べて6,641万円（66.4%）増加し、1億6,648万円となった。

当年度純損失から一般会計繰入金を除いてみると当年度純損失7億9,648万円となり、前年度に比べて6,541万円（8.9%）増加した。

### (2) 財政状態

資産合計は、建物や器具及び備品などの減価償却等に伴い固定資産が減少したものの、現金預金の増などにより流動資産が増加したことにより、前年度に比べて1,830万円（0.3%）増加し、65億6,230万円となった。

資本合計は、当年度純損失により欠損金が増加したものの、繰入資本金が一般会計からの出資金により増加したことにより、前年度に比べて351万円（0.1%）増加し、45億9,563万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて29万円（6.3%）減少し、430万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の償還額が借入額を上回り、前年度に比べて6,881万円（3.9%）減少し、16億9,268万円となった。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、当年度純損失であるが減価償却費を主因として業務活動により4億2,061万円増加し、有形固定資産の取得による支出等の投資活動により2億3,708万円減少し、建設改良等の財源に充てるための企業債による収入等の財務活動により1億201万円増加した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて2億8,554万円（47.6%）増加し、8億8,554万円となった。

### (4) その他

建設改良費は、火災報知設備その他更新工事等の建物改修やCT装置等の医療機器購入に充てられ、前年度に比べて7,167万円（24.9%）増加し、3億5,984万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて2,600万円（3.1%）減少し、8億円となった。

職員数は、前年度と同数の3人であった。

## 2 うわまち病院

うわまち病院の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
経 営 成 績	医業収益	279,179	279,697	280,182	276,342	273,956
	医業損失	271,164	255,871	272,280	274,253	262,514
	経常利益	25,755	47,230	10,294	30,898	35,224
	当年度純利益	25,755	47,230	10,294	30,898	35,224
	繰入金を除いた 当年度純損失	364,244	345,769	371,705	351,101	346,775
財 政 状 態	資産合計	10,003,275	9,801,037	9,581,574	9,414,060	9,332,307
	資本金	1,958,600	2,193,600	2,402,600	2,586,600	2,690,600
	資本合計	5,105,945	5,388,175	5,607,469	5,822,368	5,961,592
	自己資本構成比率	58.7%	62.2%	65.2%	68.0%	69.6%
	1年超滞納未収金	1,460	1,537	1,353	1,131	1,156
	不納欠損額	1,828	71	53	144	49
	企業債年度末残高	4,080,582	3,655,880	3,284,234	2,955,786	2,755,856
	企業債利息	62,535	32,389	23,849	19,688	17,330
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	355,956	358,662	321,051	336,119	343,087
	投資活動による キャッシュ・フロー	△152,957	81,738	△138,450	△146,627	△354,803
	財務活動による キャッシュ・フロー	△206,930	△189,702	△162,645	△144,448	△95,929
	資金期末残高	2,642,315	2,893,014	2,912,970	2,958,014	2,850,368
そ の 他	建設改良費	143,081	194,843	149,526	158,357	351,821
	一般会計繰入金	643,000	628,000	591,000	566,000	486,000
	職員数	3人	3人	3人	4人	5人

- (注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。  
 2 繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。  
 3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。  
 4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本  
 5 30年度の職員数のうち1人は、うわまち病院専従の損益勘定職員である。  
 6 元年度の職員数のうち2人は、うわまち病院専従の資本勘定職員である。

## 【当年度の概要】

### (1) 経営成績

医業収益は、診断書等の手数料収入の減少に伴うその他医業収益の減により、前年度に比べて238万円（0.9%）減少し、2億7,395万円となった。

医業損失は、給与費の減などによる医業費用の減少が医業収益の減少を上回ったため、前年度に比べて1,173万円（4.3%）減少し、2億6,251万円となった。

経常利益は、医業損失が減少したことに加え、主に医業外費用が支払利息及び企業債取扱諸費の減などにより減少したため、前年度に比べて432万円（14.0%）増加し、3,522万円となった。

当年度純利益は、平成18年度から続いており、前年度に比べて432万円（14.0%）増加し、経常利益と同額の3,522万円となった。

当年度純利益から一般会計繰入金を除いてみると当年度純損失に転じ3億4,677万円となるが、純損失額は前年度に比べて432万円（1.2%）減少した。

### (2) 財政状態

資産合計は、建物などの減価償却等に伴い固定資産が減少したことに加え、現金預金の減などにより流動資産が減少したことにより、前年度に比べて8,175万円（0.9%）減少し、93億3,230万円となった。

資本合計は、繰入資本金が一般会計からの出資金により増加したことなどにより、前年度に比べて1億3,922万円（2.4%）増加し、59億6,159万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて2万円（2.2%）増加し、115万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の新たな借入れがなく償還のみであったため、前年度に比べて1億9,992万円（6.8%）減少し、27億5,585万円となった。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、当年度純利益と減価償却費を主因として業務活動により3億4,308万円増加し、有形固定資産の取得による支出等の投資活動により3億5,480万円減少し、建設改良等の財源に充てるための企業債の償還による支出等の財務活動により9,592万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて1億764万円（3.6%）減少し、28億5,036万円となった。

### (4) その他

建設改良費は、MR I装置等の医療機器購入や新市立病院建設基本計画策定支援業務委託等の新市立病院建設準備事業などに充てられ、前年度に比べて1億9,346万円（122.2%）増加し、3億5,182万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて8,000万円（14.1%）減少し、4億8,600万円となった。

職員数は、前年度に比べて1人増加し、5人となった。

